

## 18 白川村立白川郷学園

学 校 名	白川村立白川郷学園 (校長 水川 和彦)
活動の種類・単位	児童生徒がふるさと白川郷をフィールドに国際理解・親善を進めた。
教育課程上の位置付け	総合的な学習の時間, 教科 (英語・外国語活動)

### 1 活動テーマ

白川村に誇りをもち、世界へ発信できるグローバル人材の育成

### 2 主な活動内容

#### (1) 6年生修学旅行「ジュニア観光大使」

村より「ジュニア観光大使」に任命され、修学旅行先の奈良と京都で白川村を英語でPRした。東大寺や金閣寺などで、通りを歩く外国人観光客に「あなたは白川村を知っていますか」といったアンケートをして村の認知度を調べ、観光パンフレットを手渡した。「知らない」と答えた外国の方々には、タブレットで村の映像などを示し、英語で村の紹介をした。

子どもたちは、SEE (英語学習) で、会話に必要な英文・英単語やコミュニケーションの方法など積極的に学んだ。この体験活動を通して「国際理解・親善」を進めることができた。



▲ 観光大使として白川郷をPRする(金閣寺)

#### (2) 6～8年生「荻町コミュニケーション活動」

白川郷学園では、各務原市や羽島郡二町の「立志塾」プログラムに一部参加し、交流を通して、英語力とコミュニケーションスキルの向上を目指している。主な内容は、荻町合掌集落にて両市町の生徒と共に、外国の方々を観光案内し、自分のふるさとをPRすることである。その際、自らコミュニケーションを求め続ける姿勢が必要である。そのために、英語の時間を使って事前学習 (会話練習) をして、実際に荻町合掌集落に出かけ、外国の方々との会話 (道案内等) を実践練習したりした。

さらに、この活動は、8年生が次年度に控える「海外 (オーストラリア) 研修」に向けた実践の場としても位置付けている。



▲ 外国の方々を道案内する生徒(荻町合掌集落)

子供たちに付いた力	「合掌集落について外国人に英語で説明する。」機会を通して、相手や目的・場面・状況等に応じてやり取りすること、特に、身振り手振りを交えて話すこと、タブレットの写真や資料を活用して説明すること等、コミュニケーションスキルが高まった。
効果	交流(発表)体験の積み重ねにより、タブレットを使って説明する「プレゼンテーションスキル」が高まった。特に、後期課程生徒は、誰もが授業や集会において、人前で堂々と発表できるようになった。 外国人に「ふるさと白川郷」を説明するために、郷土の歴史や文化を知ること、そこに生きる人々の熱い思いを知ること、さらに、外国の国々を調べ、知ることなど、より積極的に学ぼうという意欲につながった。 本校への来校者(地域・県内外・外国)に対して、明るい挨拶やいいねいな対応(受け答え)等、お客様を迎える「おもてなし」の心で接することができるようになった。
今後の方向	モニター校支援によって、英語・外国語活動の授業における、児童生徒の教育活動が充実した。これが、校外学習や他校との交流活動に大きく生かされた。さらに、それらが点ではなく、線となる系統的な指導も確立しつつある。これを、1～4年生の外国語活動(本校ではSEE)につなげていくこと、さらに、保育園との連携も視野に入れていきたい。